

永原学園地域子育て支援センター

さんこう・ぽぽらだより

令和3年12月発行・第176号

認定こども園西九州大学附属 三光保育園

TEL:0952-31-6877

12月の生活目標

- ♪お友達と仲良く遊びましょう。
- ♪「かしてね」「どうぞ」
- 「いいよ」「仲間に入れて」
- などの言葉を使いましょう。

「家族でごみについて考えましょう！」

11月は、ぽぽらの環境講座の一環でエコプラザ訪問がありました。参加された皆さんの「ごみ処理」に対する関心は高く、家庭から出されたごみが佐賀市のエコプラザに運び込まれ、清掃工場やリサイクル工場でどのように処理されていくのか、またその過程ではどのような問題があるのか等を学びました。小学校4年生でごみ(3Rを含む)に関して学校で学ぶ機会はあるようですが、参加された保護者の方からは、「子どもが学ぶ前に、自分たちがごみについて色々なことを知り、家庭で取り組む姿を見せておかなければと感じました」等の感想が寄せられました。

三光では、幼児期の環境教育として、教育・保育課程の中にしっかり位置づけて、学年ごとに色々な活動をしています。ごみの分別は年中児からはじめ、リサイクル、リユース、リデュースの3Rについての体験活動をさせています。親子で学べるよう、運動会の競技に加えたりして楽しく取り組んでいます。ペットボトルもラベルと蓋を外し、中の液体を全部捨てておかなければリサイクルできない現状もあるようです。年末はお掃除でごみがたくさん出ますね。親子でぜひ正しいごみの出し方を学んで下さい。(三光保育園園長)

子育て支援の活動では、どんぐりを使った製作や、赤ちゃんたちと足形アートをしました。また、食育講座では悩みを話し合い、シニアサロンでは園で作ったお米の藁を使って、しめ縄作りに挑戦!!環境講座ではエコプラザに行くと、11月は秋の深まりと共に芸術と学びも深めてきました♪

親子でどんぐり製作



足型アート



エコプラザで、エコを学ぶ!



しめ縄作り



「シニアサロンぽぽら」

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。お茶とお菓子を頂きながら、おしゃべりや物づくりを楽しみませんか? **日時: 12/24 (金)・1/14 (金)**

♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。
※毎月第3火曜日の14時~16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。
事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

さんこう・ぽぽら開放の時間帯について

【開園日】月~金(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】9:00~12:30

- ・園行事の為、ご利用できない場合があります。
- ・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。

12:30~13:30

昼休みの為閉園

13:30~16:00

- ・ご利用の場合は、必ず電話での申し込みをお願いいたします。

12月・1月の「子育て支援事業」のお知らせ

- ・12月13日(月) …2歳・3歳の日
- ・12月15日(水) …1歳の日
- ・12月16日(木) …1歳の日
- ・12月17日(金) …赤ちゃんの日
- ・12月22日(水)・23日(木) …フリーデー
- ・1月11日(火) …赤ちゃんの日
- ・1月12日(水) …1歳の日
- ・1月13日(木) …1歳の日
- ・1月17日(月) …2・3歳の日
- ・1月19日(水)・20日(木)・21日(金) …フリーデー
- ・1月24日(月) …しゃべり場(赤ちゃん)
- ・1月25日(火) …しゃべり場(1歳)
- ・1月26日(水) …しゃべり場(2.3歳)

※時間: 10時~11時

※開催場所: 運動場・子育て支援センター

※事前の電話での申し込みが必要です。12/1(水)9時半~17時

1月の申し込みは、1/5(水)の9時半~17時です。

先着順です。

※赤ちゃんの日は兄弟児の参加はご遠慮下さい。1歳と2・3歳の日は、参加できます。

★新型コロナウイルス感染症の状況により、計画の変更がある場合があります。出かける前に必ずHPで確認してください。感染症対策にもご協力ください。

「子どもの遊び心の力」

西九州大学 子ども学部心理カウンセリング学科 特任講師 村岡淑恵

遊びとは、自発的になされる活動で、その活動をすることに楽しいという感情が伴います。この快の感情を伴いながら、子どもは遊びを通して様々な経験を積むことができます。

例えば、シャボン玉で遊ぶ場合は、シャボン玉が膨らむ、風の流りに浮かぶ様から科学的知識をえることができますし、シャボン玉液を飲んでではダメで、必ずフ〜ッと息を吹くことや、人に吹きかけないなどのルールを学び社会的知識を身につけることにもつながります。

では、遊びをどのように捉えればいいのでしょうか？発達からみると遊びは、身体運動、認知、言語コミュニケーション、社会性、情動、自己の発達などの子どもの全般的な発達と関連しています。そのため、発達した力を遊びの中で発揮する「結果としての遊び」と、遊びを通して発達が促される「手段としての遊び」の2つの視点が必要となります。

まず、「結果としての遊び」を“色鬼”で考えてみましょう。“色鬼”は、鬼となった人が色を指定して、鬼以外が指定された色を見つけて、鬼から逃げるといった遊びです。ここでは、色の概念、ルール理解、運動発達など子どもの発達した力を用いて遊びを展開しているわけです。

次に、「手段としての遊び」を“積み木を積み上げる遊び”で考えてみましょう。乳幼児の場合は、積み木を積み上げるだけでも、最初は上手くいきません。しかしながら、遊びを繰り返すことで積み木を積み上げることができるようになっていきます。

このように、子どもが今まさに発達している力を発揮する楽しさと、もう少しでできそうと思えて夢中になりあと一歩を楽しむといった両方の遊びを育むことが大切でしょう。

さて、子どもたちは遊ぶ空間が限られていたり、玩具のないところではどのように遊ぶのでしょうか？実は、子どもの遊びたい気持ちが日常生活の中にある物を遊べる空間や物へと作り変えることができるのです。例えば、階段で遊ぶ子どもを見かけます。大人からすると危なくて階段では遊ばないでほしいのですが、子どもにとってみると、ここでの階段は移動の手段ではなく、遊ぶ道具となっているのです。そこに、誰が早く階段を登れるかなどの遊びのルールが生まれることもあります。このような楽しい気分が他の子どもにも伝わり、遊びが広がったり、新しい遊びが創り出されていくのです。つまり、必ずしも遊びやすい空間や玩具が必要であるとは限らず、遊びそのものが「結果としての遊び」や「手段としての遊び」を生み出すようにも思われます。

そうであれば、大人が子どもと遊ぶときは、「遊べる場所」や「遊びやすい玩具」を整えるより先に、“遊ぶもの”と“遊び方”を生み出すことを一緒に楽しむことが大切であり、子どもの遊び心の力を育てることにつながるのではないのでしょうか。

